

「L I F E —意思決定支援の基本的考え方—」で学ぼう

意思決定支援

一般社団法人 権利擁護支援プロジェクトともす
川端 伸子



1

「LIFE—意思決定支援の基本的考え方—」が
生まれた経緯

- ◆ 「幸せだなあ」と感じる瞬間をいくつか、思い浮かべてみてください。
- ◆ すべてが、人に自慢できるような瞬間ですか？
- ◆ その瞬間は、子どもの頃から今まで、ずっと変わらず同じことでしたか？



保護

賢い選択しない権利
(愚行権)

エイジズムの打開

「年寄りのくせに」
「年を取ってるんだから」

権利擁護を必要とする人

権利侵害を受けていても、
自分の権利を護るため行動
を起こすことができない

権利があっても、その権利の
行使を一人ですることができ
ない

権利擁護の支援の内容

権利侵害・虐待の防止

消極的権利擁護

意思決定支援 その人らしい生活を支 えるケア

積極的権利擁護

権利擁護という言葉に様々な意味を含んでいます。





わかりやすい世界人権宣言（谷川俊太郎訳）

第3条 安心して暮らす

ちいさな子どもから、おじいちゃん、おばあちゃんまで、わたしたちはみな自由に、安心して生きていける権利をもっています。

あんしんを守り

障害者権利条約

Nothing about us without us

わたしたちのことを、わたしたち抜きに決めないで

その人らしい暮らし、尊厳を護る

【自宅で娘さんと】

この間、騙されそうになったでしょ、危ないでしょ。

消費生活センターの人からも「ご家族がちゃんとみてあげてください」と言われたの。私が通帳預かって毎月お小遣い振り込むから。

【医療機関にて、地域包括支援センターへの説明】

〇〇さんの事なんですけど。

今回の脳梗塞で麻痺が残りました。介護が必要な状態になります。

お一人暮らしはもう無理だと思います。

ご家族はいないんですよね？

介護してくれる施設、探してあげてください。

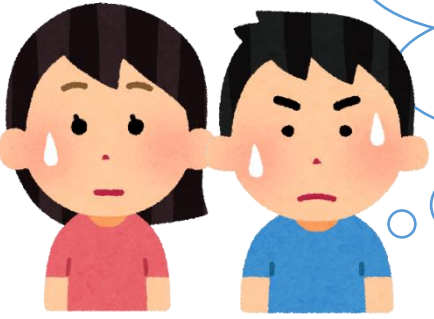
意思決定支援 Supported Decision-Making

「本人に意思決定させること」が意思
決定支援なのではない
今決める必要が無いことを決めるよう
強制しないことも大切な支援


 「念のため決めておいて！」
「今、決めておいて！」

5つのガイドラインの概要

	A 障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン	B 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン	C 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン	D 身寄りがいない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン ※身寄りがいない場合の医療機関等の対応等に係る部分を除く	E 意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン
だれの ために？	●障害のある人 知的障害、精神障害、発達障害のある人など、障害福祉サービスを必要とする人	●認知症の人 認知機能の低下が疑われる人も含む	●人生の最終段階を迎えた人	●身寄りのない人 医療に係る意思決定が困難な人	●成年後見人 ●被保佐人 ●被補助人
だれに？	●事業者等	●周囲の人	●医療従事者介護従事者家族等	●医療従事者介護従事者成年後見人等	●成年後見人 ●保佐人 ●補助人 ●中核機関 ●行政職員等
どのような ときに？	日常生活・社会生活の意思決定の場面	日常生活・社会生活の意思決定の場面	人生の最終段階	入院・医療に係る意思決定が困難な場面	本人にとって重大な影響を与えるような法律行為＋付随した事実行為の場面
どのような 方法(姿勢)で？	チーム＋本人の環境調整＋本人による決定の支援	チーム＋本人の環境調整＋意思形成・表明・実現支援	チーム＋適切な情報提供＋本人による決定の支援	同左	チーム＋本人の環境調整＋意思形成・表明支援 ※実現支援は、後見人等の身上保護の一環として取り組むこととされている
本人の 意思確認が 難しいときは？	推定意思・選好の尊重(優先) →本人にとっての最善の利益の追求(最後の手段)	推定意思・選好の尊重 ※代理代行決定については本ガイドラインの対象外とすることを明記	推定意思の尊重＋本人にとっての最善の方針に基づく対応	同左	推定意思・選好の尊重(優先) →本人にとっての最善の利益の追求(最後の手段)



認知症の人で後見人さんが選任されていて入院するときは、どのガイドラインを使いますか？



全部のガイドラインを読みましたが、違っているところもあって、全部を理解して使いこなすのが困難です。。

- ◆ 第二期成年後見制度利用促進基本計画p.12「各ガイドラインに共通する基本的な意思決定支援の考え方についての議論を進め、その結果を整理した資料を作成する。」という記述に基づき、令和4年度厚生労働省社会福祉推進事業にて、研修資料を作成。

◆ 検討体制と検討概要について

検討委員会

所属・役職 (◎：委員長)

◎ 青木 佳史	日弁連高齢者・障害者権利支援センター 副センター長	住田 敦子	尾張東部権利擁護支援センター センター長
◎ 新井 誠	中央大学研究開発機構 教授、日本成年後見法学会 理事長	高橋 良太	全国社会福祉協議会 地域福祉部長
五十嵐 禎人	千葉大学社会精神保健教育研究センター 教授	西川 浩之	成年後見センター・リーガルサポート 副理事長
小賀野 晶一	中央大学法学部 教授	花俣 ふみ代	認知症のひとと家族の会 副代表理事
小川 朝生	国立研究開発法人国立がん研究センター 精神腫瘍科長	星野 美子	日本社会福祉士会 理事
久保 厚子	全国手をつなぐ育成会連合会 会長	水島 俊彦	日本司法支援センター（法テラス）本部 シニア常勤弁護士
櫻田 なつみ	日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構 理事		

作業部会 1

WG（共通資料作成検討）

所属・役職 (○：作業部会長)

○ 小川 朝生	国立研究開発法人国立がん研究センター 精神腫瘍科長
住田 敦子	尾張東部権利擁護支援センター センター長
曾根 直樹	日本社会事業大学准 教授
中 恵美	金沢市地域包括支援センターとびうめ センター長
三浦 久幸	国立長寿医療研究センター（在宅連携医療部）部長
又村 あおい	全国手をつなぐ育成会連合会 事務局長
山縣 然太郎	山梨大学大学院総合研究部 教授
山崎 さやか	健康科学大学看護学部 助教

- 各ガイドラインに共通する基本的な意思決定支援の考え方について、研修資料作成

作業部会 2

WG（意思尊重に関する内容検討）

所属・役職 (○：作業部会長)

○ 桐原 尚之	全国「精神病」者集団
西尾 史恵	弁護士 岡山パブリック法律事務所
西川 浩之	成年後見センター・リーガルサポート 副理事長
星野 美子	日本社会福祉士会 理事
○ 水島 俊彦	日本司法支援センター（法テラス）本部 シニア常勤弁護士

- 意思尊重に関する内容の検討
- 後見人等に課せられた義務と各ガイドラインとの関係性に関して、インタビュー等の現状調査及び結果分析

- ◆ 「成年後見はやわかり」の『意思決定支援について総合的に学ぼう』のページに掲載
- ◆ 中恵美さんの説明動画も公開中！

The screenshot shows the homepage of the Japanese Guardianship website. The URL is <https://guardianship.mhlw.go.jp>. The main navigation bar includes a home button, a search bar, and a search button. Below the navigation bar, there are several menu items: "ご本人・家族・地域のみなさまへ", "支援をご検討しているみなさまへ", "成年後見人等のみなさまへ" (highlighted with a red box), "自治体・中核機関のみなさまへ", "相談窓口のご案内", and "よくある質問". Under the "成年後見人等のみなさまへ" menu item, there is a sub-menu with two items: "成年後見人等の選任と役割" and "成年後見人等を対象とした意思決定支援研修". A red box highlights the link "意思決定支援について総合的に学ぼう" (highlighted with a red box) in the sub-menu. A red arrow points from this link to a separate image in the bottom right corner.





意思決定支援の基本的考え方

～だれもが「私の人生の主人公は、私」～

この研修資料の使い方

- ① この研修資料は、「意思決定支援」に共通する基本的な考え方や実践方法について知り、本人と本人の人生「LIFE(生活、人生、生命)」とのかかわりに活かしていくことを目的として作成しました。

- ② この研修の対象者は、このような本人と本人の人生「LIFE(生活、人生、生命)」にかかわるすべての人を対象としています。

- ③ 「私の人生を私として生きる。」
だれもが「私の人生の主人公は、私」です。

- ④ それはかかわる人の理解があってこそ実現できるものと考えられます。



もくじ

はじめに

1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

2 意思決定支援のポイント

3 実践と原則

さいごに





意思決定支援の基本的考え方

～だれもが「私の人生の主人公は、私」～

この研修資料の使い方

- ① この研修資料は、「意思決定支援」に共通する基本的な考え方や実践方法について知り、本人と本人の人生「LIFE(生活、人生、生命)」とのかかわりに活かしていくことを目的として作成しました。
- ② この研修の対象者は、このような本人と本人の人生「LIFE(生活、人生、生命)」にかかわるすべての人を対象としています。
- ③ 「私の人生を私として生きる。」
だれもが「私の人生の主人公は、私」です。
- ④ それがかかわる人の理解があってこそ実現できるものと考えられます。



もくじ

はじめに

- 1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと
- 2 意思決定支援のポイント
- 3 実践と原則

さいごに



はじめに

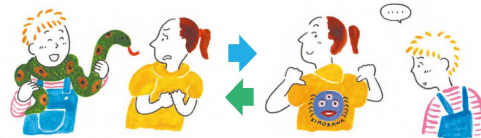
私の体験をふりかえろうー誰も当事者ー

- ① あなたの人生を振り返ってみましょう。
特に印象に残った「決定・選択」にはどんなものがありましたか?
- ② そのとき、あなたはどんな風に「決定・選択」しましたか?
誰かに相談しましたか? 何かに背中を押されたか? 決めることになったとしたら、それはどうですか?
- ③ もしもそのとき、あなたの周りのすべてが、あなたの決定・選択を無視して、反対の方向に強引に進めたとしたら、どのようなことが起きたら、あなたはどのような気持ちになるでしょうか。

1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

“私(本人)”の視点から考える

時に、あなたにとって重要なことが、私にとって重要ではないことがあります。また、その逆もあります。



意思決定支援では、支援する側の視点ではなく、“私(本人)”の視点に立ちます。

1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

チームで支える、一緒に支える

だれもが意思決定をする当事者であり、同時に本人にかかわる人です。一人で生きている人はいません。支えられながら、誰かを支えています。その中で人が、お互いに支え合いながら「私の人生の主人公は私」という人生を生きています。チームで支える、一緒に支えるという意図を取り組みましょう。



1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

知っておきたい4つのこと

- ① 「意思決定支援」では、すべての人には意思があるという前提に立って、本人が自分で自分のことを決めるにあたり、一人ひとりに合わせた支援をおこなうことを大切にします。
- ② 障害者権利条約には、「私たちのことを私たちが抜きで決めないで」(Nothing About us without us) というメッセージがあります。その意思決定に、“私(本人)”は本当の意味で参加しています。
- ③ 「私の人生を私として生きる」希望どおりといかずとも、いろいろな間違いや不自由もあるけれど、自ら選択し、自分の生活・暮らしを生きていると感じられるでしょうか。
- ④ それぞれの環境や状況に応じて、必要な配慮や支援を受ける機会が保障され、本人の意思が尊重される社会、本人の尊厳が確保される社会の実現が望まれます。

1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

いつでもどこでも

日常生活でも

着る物を選ぶ
●食べ残、洋服を選ぶ
●買い物をする・掃除・働く
●新しい場所を知る、移動の方法を選ぶ
●どういうスタイルで過ごすか
〔自らから、できれば、スケジュールを決めて?そのときの気分です?〕

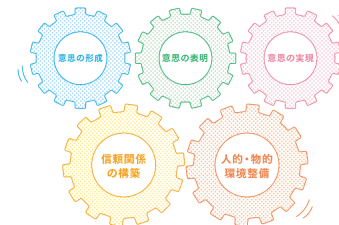
重要な場面や人生の転機でも

住む場所を変える
医療サービスを選ぶ
●暮らし方(誰と?一人で?アットホーム?同じ場所?場所を変えながら?)
●お金のこと(管理の方法、誰かサポートしてもらおう?)
●移動サービス、障害福祉サービスを選ぶ
●医療サービスを選ぶ

生活、人生は意思決定の連続です。だれもが、何かを選んだり、選ばなかったり、選んで決められなかったり、選ぶのに失敗したり、上手くいったりをくり返しなが、生活しています。

2 意思決定支援のポイント

プロセス: たくさんの歯車をかみあわせる



本人には「意思」があり、決める力があるという前提に立ち、かかわりのなかで、その意思を尊重して支えていく。

2 意思決定支援のポイント

信頼関係の構築

本人のこころ、特性、適切なコミュニケーションの取り方をよく知ることが大切です。

① 本人を知ること（好き、嫌い、大切に思うこと、得意、苦手なこと等）

② 本人を知るための関係づくりやコミュニケーションの取り方を知ること



2 意思決定支援のポイント

人的・物的環境整備

① 周囲の人の態度や関係によって、本人の意思決定は影響を受けます。本人の意思を尊重する態度、本人が安心できるような態度、本人との信頼関係、関係性への心配りが必要となります。盲聋しなくても聞く、という姿勢が大切です。「ただ、そばにいる」という支援もあります。



② 物理的環境や時間帯によっても、本人の意思決定は影響を受けます。なるべく本人が慣れた場所で、本人が一善力を発揮できる時間帯で意思決定支援を行うことが望まれます。



2 意思決定支援のポイント

意思形成支援：ケバブは知らないや食べられない

適切な情報、環境、設備の下で、意思が形成されることを支援します。

「なんで食べているの？」メニューから注文しようとしても、メニューが読めなければ選べない。

「ケバブってなに？」メニューが読めたとしても食べることができない料理を選ぶことが難しい。

考えを即断するような働きかけがあると決めることは難しい。



意思を決定するためには、その内容についての適切な情報が必要となります。

2 意思決定支援のポイント

意思表明支援

形成された意思を適切に表明・表出することを支援します。

「早く決めて早く自分で決めたい」という声など、支援者が決断を迫る態度で接したり、本人の以前の発言の責任を問う態度で接するなどの希望を表明・説明していく。

本人の表明した意思に疑問や迷いがあるときは、意思形成プロセスを繰り返す、再度確認する。

時間経過で意思が変わることもある。また重要な決定は、再度確認することも必要である。

「まだ理由を聞いてもいい？」言葉で表現されていることとは別の「本当の思い」があることもある。



心の中で決めていても、それを表明・表出するには、適切な環境が必要となります。

2 意思決定支援のポイント

意思実現支援

本人の意思を日常生活・社会生活に反映することを支援します。

「あなたには無理じゃないか？」本人の意思が実現されたり否定されたりすることが続く、意思形成、意思表明の意欲は弱まる。

「食べたい」「自分でつくりたい」意思実現のプロセスにおいても本人がその能力を最大限に活用して参加することが本人の力となる。

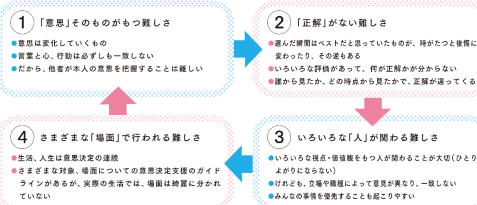
本人の意思と本人以外の人の意思が相反してしまい、本人の意思だけが尊重できない場合でも、だれかが我慢するのではなく、みんなの意思が尊重される選択はないか探めず考えることが大切。



本人とともに意思の実現を目指して取り組むことが、(本人やチームの)経験の豊かさにもつながります。

3 実践と原則

大切なのに、難しい。それはなぜ？



いろいろな難しさがあるからこそ、意思決定支援の原則は、共有しておくことが大切です。

3 実践と原則

意思決定支援の原則

①

どのような人であっても、本人には意思があり、決める力があるという前提に立って、意思決定支援をします

②

本人が自ら意思決定できるよう、実行可能なあらゆる支援を尽くします

③

不合理にみえる意思決定でも、それだけで本人に決める力がないと判断せず、尊重します



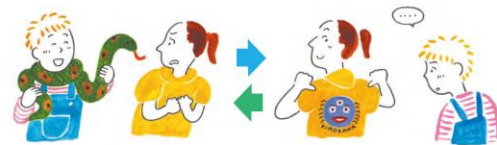
さいごに

まとめ

- ① 意思決定支援は、本人とかわかる人たちの共通となる姿勢と行動、プロセス
 - だれかが盲聋者本人であり、同時に本人にかかわる人でもあります。
 - 「私の人生を助けてほしい」だけでなく私の人生の主人でもあります。
 - 意思決定の結果にも関わらず、本人にとって納得感のあるプロセスを促すことが大切です。
- ② 実行することの難しさも共有し、本人とかわかる人たちで試行錯誤する
 - 意思決定支援を学び、ひとりよがりにならないよう、いろいろな視座や価値観を持つ人たちと共に考えます。
 - 時間的制約であることにも留意しながら、みんなで支え合い、意思決定支援をおこないます。その時々うまくいかなかったとしても、あきらめたいことがありません。
 - 本人を尊重したい人も、困る立場、迷った時、上手いかわない時には、本人にかかわる他の人たちに、「助けを求めてください」。
- ③ キーパーソンは常に本人である
 - 困る人たちは、悩んだら本人の希望や気持ちに立ち寄りましょう。
 - 「私たちのことを私たちで決めないで」(Nothing About us without us) その意思決定に、「私(本人)」は本音の意味で参加していますか？



時に、あなたにとって重要なことが、私にとって重要ではないことがあります。



だれもが「私の人生の主人公は私」

2

意思決定支援の前提を確認

本人と支援者の本質的關係①

1 意思決定支援と代行決定

意思決定支援における後見人等の立ち位置

本人と支援者の本質的な關係 ①

本人（支援の受け手）は、支援者との關係において、
対等な立場に立ちにくい心理的制約を抱えている。

「おそれ」

こんなこと言ったら、
〇〇してもらえなくな
るかも…。

「自己抑制」

お世話になっているのに、
わがまま言えない…。

「あきらめ」

言っても
しょうがない…。

本人と支援者の本質的な関係 ②

支援者の価値観による…

- 利益
- 保護
- 安全

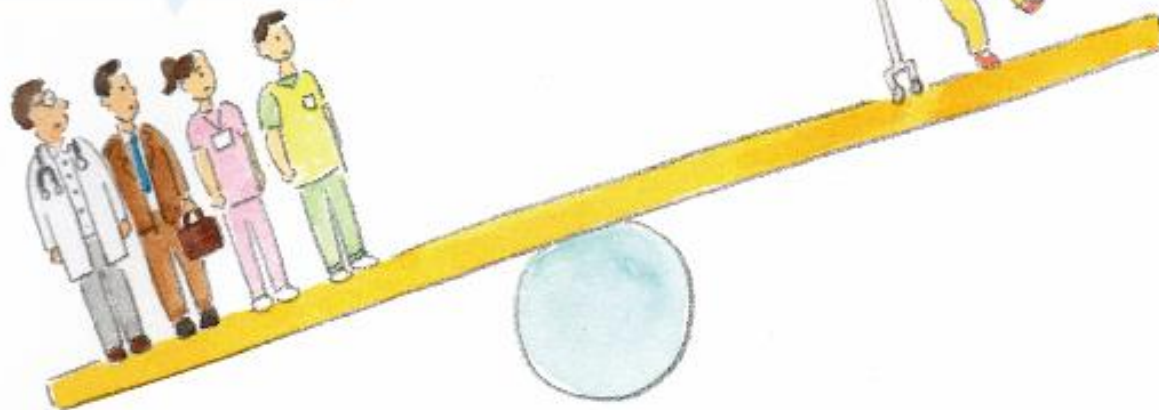
緊張関係

目的の非対称性

本人の・人間としての…

- 個人の自由
- 尊厳
- 生き方の選択

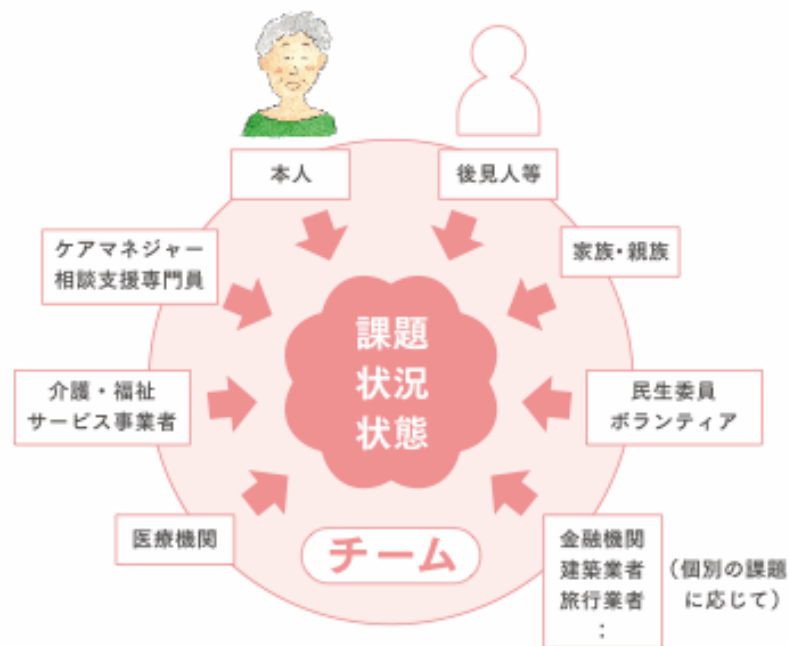
後見人等は、他の支援者よりも圧倒的な権限（代理権等）を有している。このため、本人と同等の立場に立つことが難しくなっている。



「後見人等への意思決定支援研修 私のことは私とともに決めてほしい」より

本人とともに課題を解決していくチーム像

「本人は意思決定支援を受ける対象（客体）である」から、
「本人は支援を受けて意思決定を行う主体である」という視点への転換。



出典：ソーシャルワークの理論と実践の基礎、公益社団法人東京社会福祉士会、2019年、
へるす出版 88頁 図3-4 協働体制の変化（福山和女）より一部改変引用
出典：公益社団法人日本社会福祉士会主催「地域における意思決定支援の実践に向けて」

意思決定能力

意思決定能力 = 本人の個別能力 + 支援者側の支援力

意思決定能力は、本人の個別能力だけでなく、支援者側の支援力によって変化します。

意思決定能力

本人の個別能力

- 意思決定に関する情報について、本人が理解すること
- 必要な情報を、本人が記憶すること
- 本人が、選択肢を比較検討すること
- 意思決定した内容を、本人が他者に伝える（表現する）こと

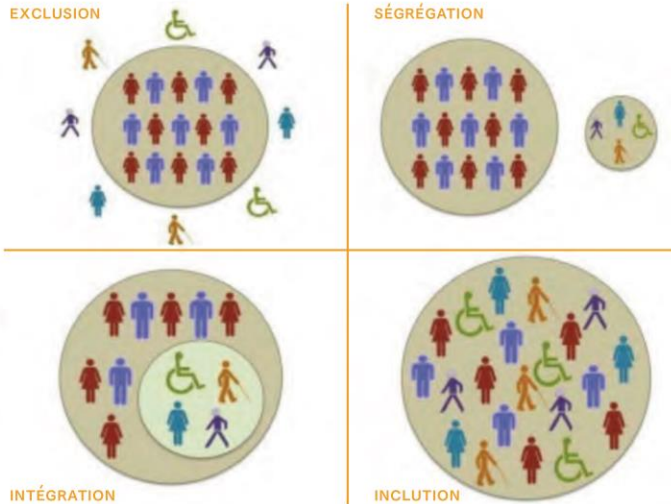


支援者側の支援力

- 上記意思決定に必要な4要素につき、以下の点を踏まえ、実践上可能な工夫、努力を尽くす。
- 能力は、あるかないかという二者択一的なものではなく、少しずつ変化するものである。
- 本人の心身の状況や、環境によって、変化する。
- 「何を決めるか」という内容によっても、変化する。

障害者権利条約等における重要概念・用語解説

インクルーシブ (包摂する)

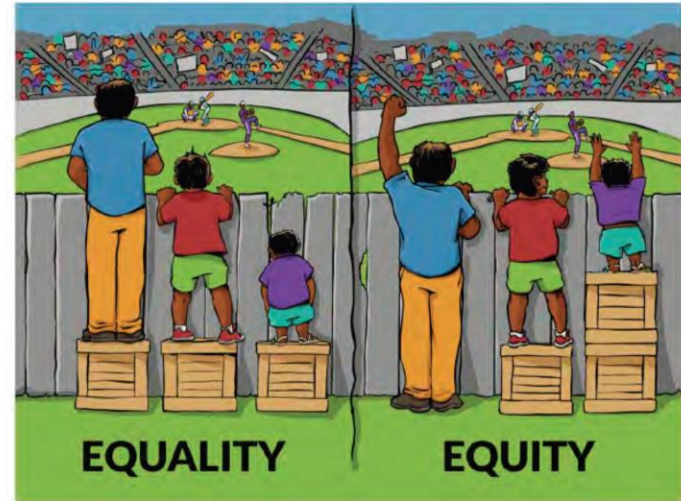


出典 LES AVIS DU CONSEIL ÉCONOMIQUE, SOCIAL ET ENVIRONNEMENTA
 Mieux accompagner et inclure les personnes en situation de handicap : un défi, une
 nécessité Christel Prado Juin 2014 P24

解説

インクルーシブ (包摂する) / インクルージョン (包摂) とは、エクスクルージョン (排除) の反対概念で、障がいのある方等が、社会から排除、分離されることなく、社会の中に溶け込んだ状態を目指すもの。上図では、左上が「排除」された状態。右上が「分離」された状態。左下が、分離されたものが一つになり「統合」された状態。右下が「包摂」された状態を表している。

合理的配慮



出典 "Interaction Institute for Social Change | Artist: Angus Maguire."
<https://interactioninstitute.org/illustrating-equality-vs-equity/>

解説

平等 (Equality) とは、全員に同じ量を均等に配分すること。公平 (Equity) とは、全員が同じ状態になるように、量を調整して配分すること。障害等のある方が、他の方々と同じように過ごすために必要な配慮のことを「合理的配慮」と呼ばれている。

3

「あるある質問」から
意思決定支援を深めよう

- 施設入所が決まっています。もう意思決定支援は必要ないですよね？
- ご本人に、何を問いかけても返答がありません。これは、推定意思で方針決定していくことになりませんか？
- ご本人の状態が悪く、人生の最終段階を迎えています。方針はもう決まっているし、意思決定支援と言われても何をしたらいいのかわかりません。
- どうしてそういう決定なのか、理解できないようなことを言います。それでも意思を尊重すべきなのでしょうか？
- そんなの、実現できないよ!ということ言います。その意思を尊重するわけにはいかないですよね？
- 言っていることがコロコロ変わります。どうやって意思を汲み取ったらいいですか？
- 私たちは時間に追われています。意思決定支援に時間をかけることができません。
- 家族が本人の思いとは全く真逆のことを主張します。どうしたらいいのでしょうか？
- 本人が「これ以上の治療を望まない」と言ったので、その決定を尊重しました。本当にこれでよかったのでしょうか??
- 私たちは意思を尊重した対応をしたいのに、関係者・関係機関がわかってくれません。連携が難しいです。



施設入所が決まっています。もう、意思決定支援は必要ないですね？

私たちは社会的意思決定にだけ関わるわけではありません。日常生活における様々な意思決定に関わっています。

そして、日常生活における小さな意思決定の積み重ねが、大きな意思決定—医療における意思決定や施設入所における意思決定などの社会的意思決定—の場面を支えています。



1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

いつでもどこでも

日常生活でも



着る物を選ぶ

- 食べ物、洋服を選ぶ
- 買い物をする ● 学び、働く
- 行きたい場所を決める、移動の方法を選ぶ
- どういうスタイルで過ごすか
(だらだら、てきぱき、スケジュールを決めて？そのときの気分で？)



買い物をする

重要な場面や人生の岐路でも



住む場所を変える



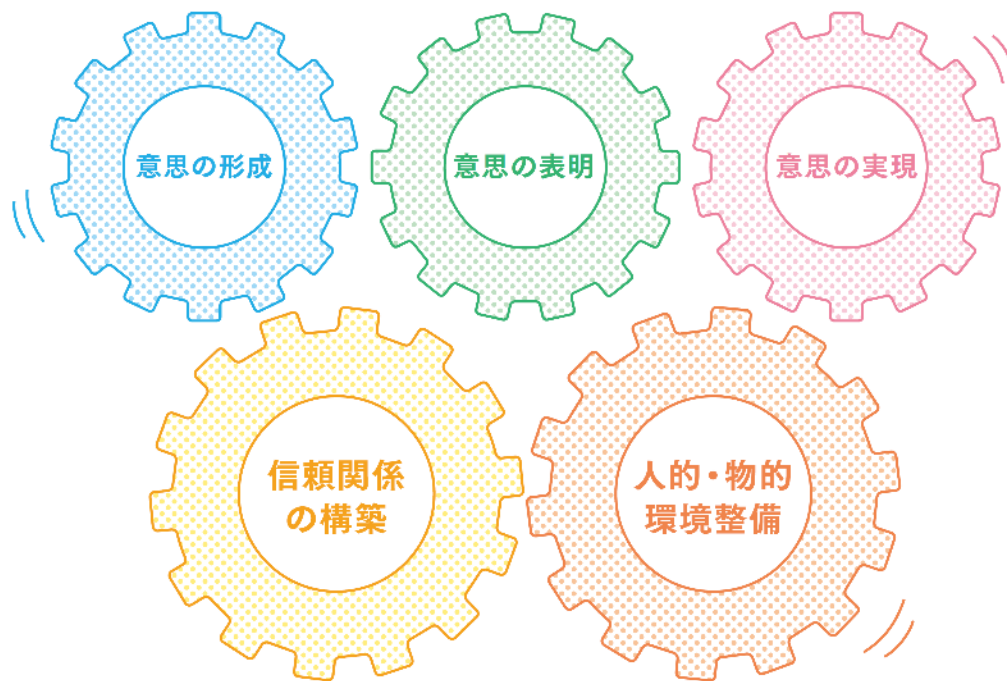
医療サービスを選ぶ

- 暮らし方（誰と？一人で？ずっと同じ場所で？場所を変えながら？）
- お金のこと（管理の方法、誰かにサポートしてもらう？）
- 介護サービス、障害福祉サービスを選ぶ
- 医療サービスを選ぶ

生活、人生は意思決定の連続です。だれもが、何かを選んだり、選ばなかったり、迷って決められなかったり、選ぶのに失敗したり、上手くいったりをくり返しながら、生活しています。

2 意思決定支援のポイント

プロセス：たくさんの歯車をかみあわせる



本人には「意思」があり、決める力があるという前提に立ち、かかわりのなかで、その意思を尊重して支えていく。

Q

ご本人に、何を問いかけても返答がありません。
これは、推定意思で方針決定していくことになりますよね？

意思是、言葉だけで表現されるものではありません。表情、目の動き等の観察をして、意思を汲み取ることも大切です。

また、本人が意思を表すことをあきらめていることも考えられます。意思が表出しやすい環境づくりも重要です。



2 意思決定支援のポイント

人的・物的環境整備

① 周囲の人の態度や関係によって、 本人の意思決定は影響を受けます。

本人の意思を尊重する態度、本人が安心できるような態度、本人との間の信頼関係、関係性への心配りが必要となります。否定しないで聞く、という姿勢が大切です。「ただ、そばにいる」という支援もあります。



② 物理的環境や時間帯によっても、 本人の意思決定は影響を受けます。

なるべく本人が慣れた場所で、本人が一番力を発揮できる時間帯で意思決定支援を行うことが望まれます。



Q

ご本人の状態が悪く、人生の最終段階を迎えています。方針はもう決まっているし、意思決定支援と言われても何をしたらいいのかわかりません。

本人に寄り添い、その意思を受け止めたいと示す姿勢そのものが、意思決定の支援となる場合があります。

人生の最終段階、ただ傍にいて手を握るということもあるでしょう。



2 意思決定支援のポイント

信頼関係の構築

本人のこと、特性、適切な
コミュニケーションの取り方を
よく知ることが大切です。

1

本人を知ること（好き、嫌い、
大切に思うこと、得意、苦手な
こと等）

2

本人を知るための関係づくり
やコミュニケーションの取り
方を知ること





どうしてそういう決定なのか、理解できないようなことを言います。それでも意思を尊重すべきなのではないでしょうか？

支援者の価値観に合わない、理解できないような不合理な意思を表明したからといって、「意思決定ができない人」と決めるつけることなく、関わりましょう。

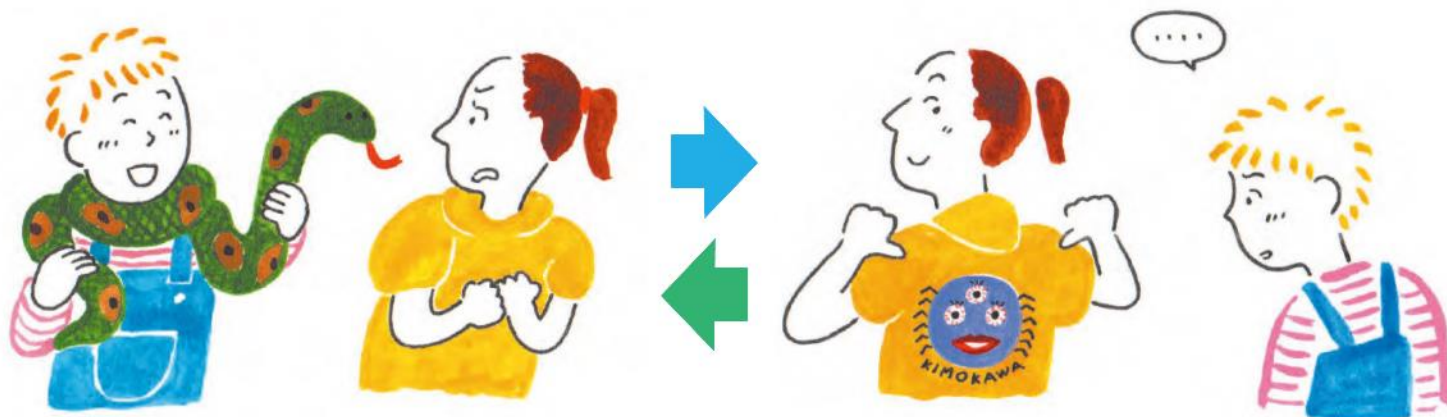
「なぜそう思うのですか？」と、本人の真意をさぐる意思の形成支援から始めることも求められます。



1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

“私(本人)”の視点から考える

時に、あなたにとって重要なことが、私にとって重要ではないことがあります。また、その逆もあります。



意思決定支援では、支援する側の視点ではなく、“私(本人)”の視点に立ちます。

1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

知っておきたい4つのこと

①

「意思決定支援」では、すべての人には意思があるという前提に立って、本人が自分で自分のことを決めるにあたり、一人ひとりに合わせた支援をおこなうことを大切にします。

②

障害者権利条約には、“私たちのことを私たち抜きで決めないで”(Nothing About us without us) というメッセージがあります。その意思決定に、“私(本人)”は本当の意味で参加していますか。

③

「私の人生を私として生きる」希望どおりといかずとも、いろいろな間違いや不自由もあるけれど、自ら選択し、自分の生活・暮らしを生きていると感じられるでしょうか。

④

それぞれの環境や状況に応じて、必要な配慮や支援を受ける機会が保障され、本人の意思が尊重される社会、本人の尊厳が確保される社会の実現が望まれます。

Q

そんなの、実現できないよ!ということを行います。
その意思を尊重するわけにはいきませんか?

「実現できないA」か「実現できそうなB」かのどちらかを選択させることが意思決定支援なのではありません。

本人が「Aがいい」と表現していることの真意、思いを受け止め、新たな「C」という選択肢を、一緒に編み出していくということも考えられるのです。



知的障害があり、グループホームに暮らすFさんは、
ある日突然、「犬を飼いたい」と訴えてきました。

Fさんの気持ちを考えた時、

あなただったら、どのように対応しますか？

このグループホームは、

ペットを飼うことを禁止しています。



- ①グループホームでは犬を飼えないことを説明し、説得する
- ②グループホームにお願いして、犬を飼えるようにしてもらう
- ③「犬を飼いたい」真意を探り出して、それに合った対応をする



Fさんの場合、③の対応をしたことで、解決できました

実は、Fさんは趣味で犬を飼いたかったわけではなく、自分の居所に他人が勝手に入ってくるのが怖くて、「犬を飼いたい」と訴えていたのです。その後、居所の入り口にしっかりと扉をつけて施錠することでFさんは満足し、もう「犬を飼いたい」とは言わなくなったそうです。



この場合、もし①や②の対応をしていたら、どうなっていたでしょう。「犬を飼えない」ことを説得されても、Fさんが抱える根本的な不安はなくなりません。「犬を飼う」ことになっても、犬の世話をすることがFさんの本心ではないために、可愛がらず、「せっかく思いをかなえてあげたのに、世話もしないで、わがままな人」と思われてしまうかもしれません。また、同じような事例であっても、Fさん以外の人の場合は、①や②が解決策になることもあります。



2 意思決定支援のポイント

意思形成支援：ケバブは知らなきゃ食べられない

適切な情報、環境、認識の下で、
意思が形成されることを支援します。

「なんて書いてあるの？」

メニューから注文しよう
としても、メニューが読
めなければ選べない。

「ケバブってなに？」

メニューが読めたとして
も食べたことがない料理
を選ぶことは難しい。

考えを邪魔するような働
きかけがあると決めるこ
とは難しい。



意思を決定するためには、その内容についての適切な情報が必要となります。

2 意思決定支援のポイント

意思実現支援

本人の意思を日常生活・社会生活に反映することを支援します。

「あなたには無理じゃない？」

本人の意思が無視されたり否定されたりすることが続くと、意思形成、意思表示の意欲は弱まる。

「食べたい」「自分でつくりたい」

意思実現のプロセスにおいても本人がその能力を最大限に活用して参加することが本人の力となる。

本人の意思と本人以外の人の意思が相反してしまい、本人の意思だけを尊重できない場合でも、だれかが我慢するのではなく、みんなの意思が尊重される選択肢はないか諦めずに考えることが大切。



本人とともに意思の実現を目指して取り組むことが、(本人やチームの)経験の豊かさにもつながります。



言っていることがコロコロ変わります。
どうやって意思を汲み取ったらいいですか？

したいことが変わることで、前はやりたかったことが嫌になったこと・・・誰もが経験してきたことではないでしょうか？

ましてや、高齢者は今まで経験したことがないような事柄を決めようとする場合があります。気持ちが変わることは当たり前、という姿勢で臨みましょう。



3 実践と原則

大切なのに、難しい。それはなぜ？

1 「意思」そのものがもつ難しさ

- 意思は変化していくもの
- 言葉と心、行動は必ずしも一致しない
- だから、他者が本人の意思を把握することは難しい

2 「正解」がない難しさ

- 選んだ瞬間はベストだと思っていたものが、時がたつと後悔に変わったり、その逆もある
- いろいろな評価があって、何が正解かが分からない
- 誰から見たか、どの時点から見たかで、正解が違ってくる

4 さまざまな「場面」で行われる難しさ

- 生活、人生は意思決定の連続
- さまざまな対象、場面についての意思決定支援のガイドラインがあるが、実際の生活では、場面は綺麗に分かれていない

3 いろいろな「人」が関わる難しさ

- いろいろな視点・価値観をもつ人が関わるのが大切（ひとりよがりにならない）
- けれども、立場や職種によって意見が異なり、一致しない
- みんなの事情を優先することも起こりやすい

いろいろな難しさがあるからこそ、意思決定支援の原則は、共有しておくことが大切です。

2 意思決定支援のポイント

意思表明支援

形成された意思を適切に表明・表出することを支援します。

「早く決めて!」「前に決めたことと違う!」

など、支援者が決断を迫る態度で接したり、本人の以前の発言の責任を問う態度で接すると心からの希望を表現・表明しにくい。

本人の表明した意思に疑問や迷いがあるときは、意思形成プロセスを振り返り、再度確認する。

「選んだ理由を聞いてもいい?」

言葉で表現されていることとは別の「本当の思い」があることもある。

時間の経過で意思は変わることもある。また重要な決定は、再度確認することも必要である。



心の中で決めていても、それを表明・表出するには、適切な環境が必要となります。



私たちは時間に追われています。
意思決定支援に時間をかけることができません。

私たちが関わる期間だけで、意思決定支援を完結させようと思える必要はありません。
次のチームとも連携して、本人の意思決定支援を考えていきましょう。
今までの支援の経緯を、次のチームに伝えること、以前のケアチームから、今までの支援の経過を聞くことも大切です。



1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

チームで支える、一緒に支える

だれもが意思決定をする当事者であり、同時に本人にかかわる人です。一人で生きている人はいません。支えられながら、誰かを支えています。その全ての人がお互いに支え合いながら「私の人生の主人公は私」という人生を生きています。チームで支える、一緒に支えるという意識で取り組みましょう。



まとめ

1 意思決定支援は、本人とかかわる人たちの 共通となる姿勢と行動、プロセス

- だれもが当事者本人であり、同時に本人にかかわる人でもあります。
- 「私の人生を私として生きる」だれでも私の人生の主人公は私です。
- 意思決定の結果にとらわれず、本人にとっても納得感があるプロセスを踏むことが大事です。

2 実行することの難しさも共有し、 本人とかかわる人たちで試行錯誤する

- 意思決定支援を学び、ひとりよがりにならないよう、いろいろな視点や価値観を持つ人たちと共に考えます。
- 時間の制約やできることに限りがあることも意識しながら、みんなで互いに支え合い、意思決定支援をおこないます。その時うまくいかなかったとしても、あきらめないことが肝心です。
- 本人を支えている人も、困った時、迷った時、上手くいかない時には、本人にかかわる他の人たちに、「助けて」と、声をあげていきましょう。

3 キーパーソンは常に本人である

- 関わる人たちは、悩んだら本人の希望や気持ちに立ち返ります。
- “私たちのことを私たち抜きで決めないで”(Nothing About us without us) その意思決定に、“私(本人)”は本当の意味で参加していますか？





家族が本人の思いとは全く真逆のことを主張します。
どうしたらいいのでしょうか？

本人がやりたい「A」と、家族が主張する「B」。どちらかで対決するのではなく、それぞれの主張の背景にある「理由」「真意」を交わせる支援をしていきたいものです。新たなCが見つかる場合もあれば、「やっぱりAでいきましょう」と決まることもあるかもしれません。



2 意思決定支援のポイント

意思実現支援

本人の意思を日常生活・社会生活に反映することを支援します。

「あなたには無理じゃない？」

本人の意思が無視されたり否定されたりすることが続くと、意思形成、意思表明の意欲は弱まる。

「食べたい」「自分でつくりたい」

意思実現のプロセスにおいても本人がその能力を最大限に活用して参加することが本人の力となる。

本人の意思と本人以外の人の意思が相反してしまい、本人の意思だけを尊重できない場合でも、だれかが我慢するのではなく、みんなの意思が尊重される選択肢はないか諦めずに考えることが大切。



本人とともに意思の実現を目指して取り組むことが、(本人やチームの)経験の豊かさにもつながります。

1 意思決定支援に向けて知っておきたいこと

チームで支える、一緒に支える

だれもが意思決定をする当事者であり、同時に本人にかかわる人です。一人で生きている人はいません。支えられながら、誰かを支えています。その全ての人がお互いに支え合いながら「私の人生の主人公は私」という人生を生きています。チームで支える、一緒に支えるという意識で取り組みましょう。



まとめ

1 意思決定支援は、本人とかかわる人たちの共通となる姿勢と行動、プロセス

- だれもが当事者本人であり、同時に本人にかかわる人でもあります。
- 「私の人生を私として生きる」だれでも私の人生の主人公は私です。
- 意思決定の結果にとらわれず、本人にとっても納得感があるプロセスを踏むことが大事です。

2 実行することの難しさも共有し、本人とかかわる人たちで試行錯誤する

- 意思決定支援を学び、ひとりよがりにならないよう、いろいろな視点や価値観を持つ人たちと共に考えます。
- 時間の制約やできることに限りがあることも意識しながら、みんなで互いに支え合い、意思決定支援をおこないます。その時うまくいかなかったとしても、あきらめないことが肝心です。
- 本人を支えている人も、困った時、迷った時、上手くいかない時には、本人にかかわる他の人たちに、「助けて」と、声をあげていきましょう。

3 キーパーソンは常に本人である

- 関わる人たちは、悩んだら本人の希望や気持ちに立ち返ります。
- “私たちのことを私たち抜きで決めないで”(Nothing About us without us) その意思決定に、“私(本人)”は本当の意味で参加していますか？



Q

本人が「これ以上の治療を望まない」と言ったので、その決定を尊重しました。
本当にこれでよかったのでしょうか??

誰がどの時点で振り返るかによって、その意思決定への評価が変わるという難しさがあります。

「正解を選ぶことの支援」ととらえてしまうのではなく、プロセスの支援と考えて、意思決定支援を振り返りましょう。

医療・ケアチームで、支援について考えていくことも大切です。



3 実践と原則

大切なのに、難しい。それはなぜ？

1 「意思」そのものがもつ難しさ

- 意思は変化していくもの
- 言葉と心、行動は必ずしも一致しない
- だから、他者が本人の意思を把握することは難しい

2 「正解」がない難しさ

- 選んだ瞬間はベストだと思っていたものが、時がたつと後悔に変わったり、その逆もある
- いろいろな評価があって、何が正解かが分からない
- 誰から見たか、どの時点から見たかで、正解が違ってくる

4 さまざまな「場面」で行われる難しさ

- 生活、人生は意思決定の連続
- さまざまな対象、場面についての意思決定支援のガイドラインがあるが、実際の生活では、場面は綺麗に分かれていない

3 いろいろな「人」が関わる難しさ

- いろいろな視点・価値観をもつ人が関わるのが大切（ひとりよがりにならない）
- けれども、立場や職種によって意見が異なり、一致しない
- みんなの事情を優先することも起こりやすい

いろいろな難しさがあるからこそ、意思決定支援の原則は、共有しておくことが大切です。

3 実践と原則

意思決定支援の原則

①

どのような人であっても、本人には意思があり、決める力があるという前提に立って、意思決定支援をします

②

本人が自ら意思決定できるよう、実行可能なあらゆる支援を尽くします

③

不合理にみえる意思決定でも、それだけで本人に決める力がないと判断せず、尊重します



まとめ

1 意思決定支援は、本人とかかわる人たちの共通となる姿勢と行動、プロセス

- だれもが当事者本人であり、同時に本人にかかわる人でもあります。
- 「私の人生を私として生きる」だれでも私の人生の主人公は私です。
- 意思決定の結果にとらわれず、本人にとっても納得感があるプロセスを踏むことが大事です。

2 実行することの難しさも共有し、本人とかかわる人たちで試行錯誤する

- 意思決定支援を学び、ひとりよがりにならないよう、いろいろな視点や価値観を持つ人たちと共に考えます。
- 時間の制約やできることに限りがあることも意識しながら、みんなで互いに支え合い、意思決定支援をおこないます。その時うまくいかなかったとしても、あきらめないことが肝心です。
- 本人を支えている人も、困った時、迷った時、上手くいかない時には、本人にかかわる他の人たちに、「助けて」と、声をあげていきましょう。

3 キーパーソンは常に本人である

- 関わる人たちは、悩んだら本人の希望や気持ちに立ち返ります。
- “私たちのことを私たち抜きで決めないで”(Nothing About us without us) その意思決定に、“私(本人)”は本当の意味で参加していますか？





私たちは意思を尊重した対応をしたいのに、関係者・関係機関がわかってくれません。連携が難しいです。

立場の違いから考えが違うこともあります。
本人の示している意思が違っていることもあります。

意思決定支援について、まったく学んだこともない関係者・関係機関もあることでしょう。
ガイドラインを伝える、原則を伝える、共に学び取り組もうと、働きかけていきたいですね。



同じことを目指して違う視点・専門性で支援をしていることをそれぞれに理解しておくが大切です



3 実践と原則

大切なのに、難しい。それはなぜ？

1 「意思」そのものがもつ難しさ

- 意思は変化していくもの
- 言葉と心、行動は必ずしも一致しない
- だから、他者が本人の意思を把握することは難しい

2 「正解」がない難しさ

- 選んだ瞬間はベストだと思っていたものが、時がたつと後悔に変わったり、その逆もある
- いろいろな評価があって、何が正解かが分からない
- 誰から見たか、どの時点から見たかで、正解が違ってくる

4 さまざまな「場面」で行われる難しさ

- 生活、人生は意思決定の連続
- さまざまな対象、場面についての意思決定支援のガイドラインがあるが、実際の生活では、場面は綺麗に分かれていない

3 いろいろな「人」が関わる難しさ

- いろいろな視点・価値観をもつ人が関わるのが大切（ひとりよがりにならない）
- けれども、立場や職種によって意見が異なり、一致しない
- みんなの事情を優先することも起こりやすい

いろいろな難しさがあるからこそ、意思決定支援の原則は、共有しておくことが大切です。

3 実践と原則

意思決定支援の原則

①

どのような人であっても、本人には意思があり、決める力があるという前提に立って、意思決定支援をします

②

本人が自ら意思決定できるよう、実行可能なあらゆる支援を尽くします

③

不合理にみえる意思決定でも、それだけで本人に決める力がないと判断せず、尊重します



- 多職種連携教育IPEからのヒント

「複数の領域の専門職者が、
連携およびケアの質を改善するために、
同じ場所でともに学び、
お互いに学びあいながら、
お互いのことを学ぶこと」

目的を共有

同じ立場で

何が出来て
何ができないかを知る

The UK Centre for the Advancement of Interprofessional Educationより

(埼玉県立大学GP実施部会連携と統合科目郡担当社会IP演習部会『平成18年度インタープロフェッショナル演習事業報告書』平成19年2月,p.23より引用)

場のデザインのスキル
場をつくり、
つなげる

チーム設計・プロセス設計・アイ
スブレイク

対人関係のスキル
受け止め、
引き出す

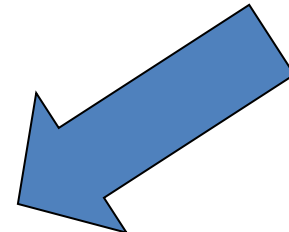
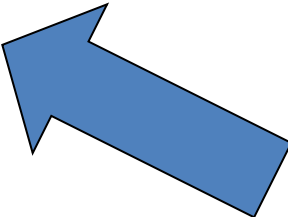
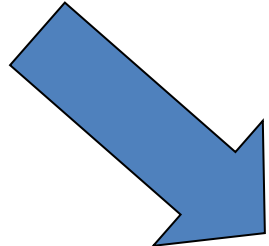
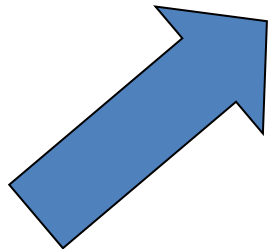
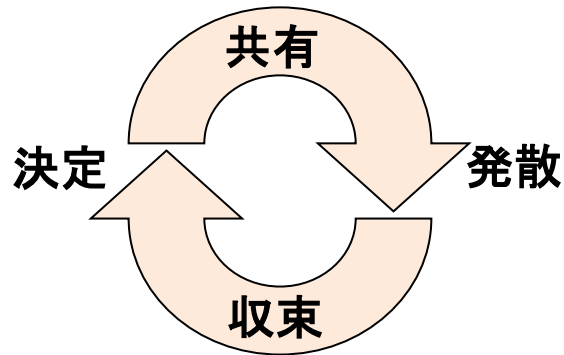
傾聴と質問、非言語メッセージ、
非攻撃的自己主張

構造化のスキル
かみ合わせ、
整理する

論理的コミュニケーション
ファシリテーション・グラフィック
フレームワーク

合意形成のスキル
まとめて、
分かち合う

意思決定手法
コンフリクト・マネジメント
フィードバック



(堀公俊・加藤彰・加留部貴行
『チーム・ビルディング～人と人を
「つなぐ」技法』, 日本経済新聞出
版, 2007年, p.52)

だれもが「私の人生の主人公は、私」と
思えるような地域を
つくっていきたい
ですね。

